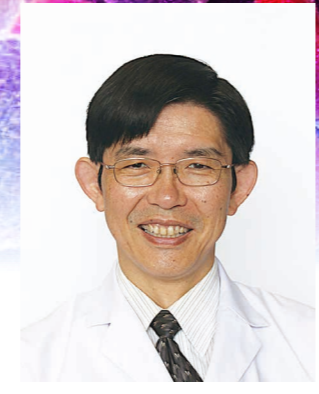


内科学講座(血液・腫瘍内科学) 教授就任のご挨拶

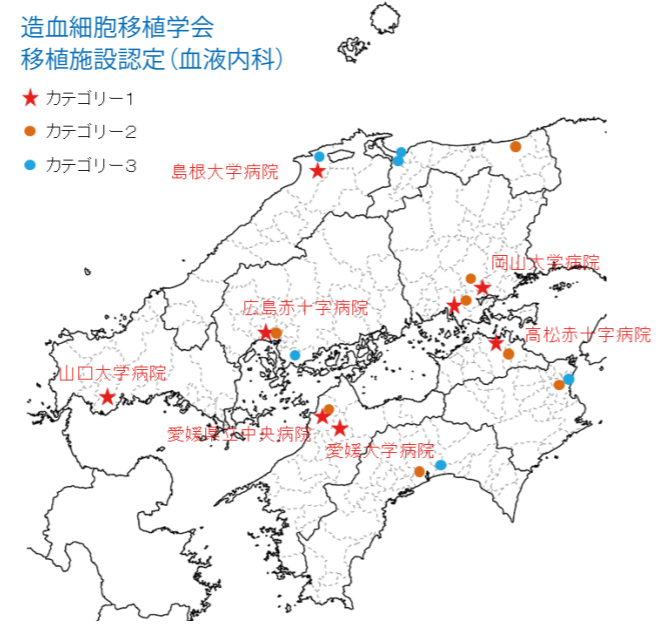


血液・腫瘍内科学 教授 **すずき りつろう**
鈴木 律朗

このたび、2020年11月1日付で島根大学医学部医学科内科学講座(血液・腫瘍内科学)の教授を拝命いたしました。

従来、島根大学医学部および附属病院の血液・腫瘍内科学の教育および診療は、先端がん治療センター(腫瘍センターより改称)が担当してきましたが、2020年3月末の鈴木淳司教授の退任にあたり、腫瘍全般を横断的に統括する組織としての従来の先端がん治療センターと、内科学講座の中に新設された血液・腫瘍内科学に担当が発展的に分かれることになり、6月より前者の責任者として田村研治教授を迎えております。組織が分かりにくい部分もありますが、従来の腫瘍・血液内科の枠組みを維持しつつ、若い医師たちが働きやすいように環境を変えて行こうと思っています。

私自身は、1989年に名古屋大学医学部を卒業し、名古屋第一赤十字病院、岡崎市立岡崎病院、愛知県がんセンター、名古屋大学医学部造血細胞移植情報管理学講座、名古屋第二赤十字病院で血液学、腫瘍学の研究・診療に携わってきました。2014年10月より島根大学腫瘍・血液内科、臨床研究センターでお世話になってきましたが、この6年間で当科の診療としては診療患者数の増加、相次ぐ新薬の導入、移植件数の増加と、山陰の地域医療における責任が増してきています。右図は中四国地方における、造血幹細胞移植の施設認定状況を示しており、当院は高水準の Kategorie-1 の認定を受けています。



今後は、これまで通りの診療に加え、輸血部・小児科など院内各部門とも連携し、高度医療であるキメラ抗体受容体遺伝子改変 T 細胞治療の施設認定を取得すべく、頑張りたいと思います。関連病院の皆さまにおかれましては、ご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

NEWS



島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

11月15日~12月14日 対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
11/15(日) 9:30~11:30	2020年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来・中央診療棟 3階 がん患者・家族サポートセンター	一般	島根大学医学部附属病院 がん患者・家族サポートセンター
11/15(日) 10:00~16:00	薬剤師のためのフィジカルアセスメントセミナー Basic	外来・中央診療棟 2階 クリニカルスキルアップセンター	医療 島根県内の薬剤師	島根大学医学部附属病院 クリニカルスキルアップセンター
11/29(日) 10:00~16:00	薬剤師のためのフィジカルアセスメントセミナー Advance	外来・中央診療棟 2階 クリニカルスキルアップセンター	医療 島根県内の薬剤師	島根大学医学部附属病院 クリニカルスキルアップセンター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

CONTENTS

- ・島根大学病院の新型コロナウイルス感染対策について(10月~11月)
- ・第17回島根大学医学部附属病院関連病院長会議を開催
- ・内科学講座(血液・腫瘍内科学) 教授就任のご挨拶
- ・島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

島根大学病院の 新型コロナウイルス感染対策について

10月～11月

病院長 井川 幹夫
いかわ みきお

県内の新型コロナウイルス感染症は、9月下旬の140例目以降、約1ヶ月の間において10月25日に1例の新規発生が報告されています。島根大学では、学内・院内感染対策として、教職員の国内移動に関して基準を定め、直近1週間の人口10万人当たりの新規感染者5人以上かつ感染経路不明割合が50%以上の都道府県を感染注意地域に指定し、毎週金曜日に翌週の指定を見直しています。ちなみに10月19日から10月25日までの感染注意地域は東京都のみとなっています。感染注意地域から帰県した教職員は、当院のCOVID-19検査センターでPCRを受検して陰性を確認するか、10日間の在宅勤務後に出勤することになります。県外からの受診患者さんに関連した院内感染対策は、外来では問診等で担当医が必要と判断すれば無料のPCR検査を受検いただき、入院患者さんについては鳥取県以外であれば入院当日に無料のPCRの受検後、結果が出るまで個室入院をお願いしています。感染リスクが低い無症状者に行う検査は感染拡大防止には役立たないとの意見はありますが、当院では全身麻酔症例では術前にPCR検査を実施しています。今後、抗原定量検査機器が使用可能となれば、入院患者さん全員に検査対象を拡大する予定です。

全国医学部長病院長会議から公表された新型コロナウイルス感染症に関する国立・公立・私立138大学病院の経営状況調査結果(4月～6月)を先月報告しましたが、7月分を追加した結果(4月～7月)が同会議から公表されました。7月に入ると、患者数や手術件数も回復傾向がみられ、外来患者数、入院患者数、手術件数、医業収入等について前年度との比較が、それぞれ-16.8%、-17.9%、-17.5%、-8.29%でした。同期間の当院の数値は-7.1%、-9.9%、+0.7%、-2.8%で、手術件数は微増、他の指標のマイナス幅は全大学病院の平均値を下回っていますが、当院の経営に大きな影響が認められます。病院経営が厳しい状況で、インフルエンザ同時流行に備えた厚労省の整備方針に大学としていかに対応するかが重要となります。当院も重点医療機関に指定され、鳥根県と連携して、新型コロナウイルス緊急包括支援交付金を活用し、これからのインフルエンザ流行期に備えた病院の機能強化を図ることとしています。

先月もお知らせしましたが、当院に設置したCOVID-19検査センターにおいては、県内の病院、診療所から、手術前、侵襲度・感染リスクが高い処置・検査、職員の出張、職場環境の管理、ビジネス目的のPCR等の検査を受託しています。今冬の発熱患者に対応する上で、当院のCOVID-19検査センターはお役に立てると存じます。

当院は高度医療の実施を通じて、さらにPCR等検査の受託により地域に貢献したいと考えております。地域の医療機関の皆様には、今後ともご支援・ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



第17回 島根大学医学部附属病院関連病院長会議を開催

総務課

10月1日(木)18時からニューウェルシティ出雲において「第17回島根大学医学部附属病院関連病院長会議」を開催しました。

この会議は、当院への患者紹介や当院からの医師の派遣等を通して関係の深い病院・診療所との意思疎通を図ること、また地域医療に貢献することを目的として設置され、毎年1回開催しており、今年で17回目を数えます。今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止として、2部屋をWeb会議システムで繋ぎ、密集を防ぐ形で行いました。会議には、島根県内48関連病院の病院長等と、井川病院長を始めとする当院関係者46名が出席しました。

冒頭で井川病院長から挨拶があった後、卒後臨床研修センター、先端がん治療センター、がんゲノム医療センター、ロボット支援手術推進センター、高度脳卒中センターの取り組みについて報告が行われ、その後、診療科のトピックスとして、循環器内科、小児科、耳鼻咽喉科、眼科、歯科口腔外科から最新の治療等について報告をしました。

最後に井川病院長より当院からの医師派遣の現状や今後の方針、当院の運営状況並びに当院が実施しているPCR検査について報告し、今後も当院が地域の中で果たすべき役割を十分認識し、関連病院の皆様の意見を取り入れ、日々改善に努める旨をお伝えし閉会しました。





ご報告

島大病院ニュース 2020年11月

周産期母子医療センター NICU・GCUの改修整備について

会計課施設管理室

当院では高度化する周産期医療を島根県内で維持・発展させることを目的として、2021年4月より現在の地域周産期母子医療センターから総合周産期母子医療センターに移行することとなりました。

これに伴い、これまで以上に高度な医療の提供をするために、10月初旬より外来・中央診療棟3階においてNICU・GCU及び産科外来の改修工事を開始しています。

改修後のNICUは現在の6床から12床へ増床する計画とし、病室の面積も現在の92㎡から128㎡へ拡張します。GCUについては病床数と面積の増加はありませんが、患者さんのご家族が気軽に面会できるよう、ベッドごとに廊下に面した窓を設置する計画です。

また、これまで手狭だった沐浴室と調乳室についても拡張を行い、病院スタッフや患者さんのご家族が、より安全で効率的な環境で診療に専念できるよう整備します。

2021年3月末まで、NICU・GCUへの入院制限や仮診察室での産科診療など以下のとおりの対応となり、ご不便をお掛けしますがご理解とご協力をお願い致します。

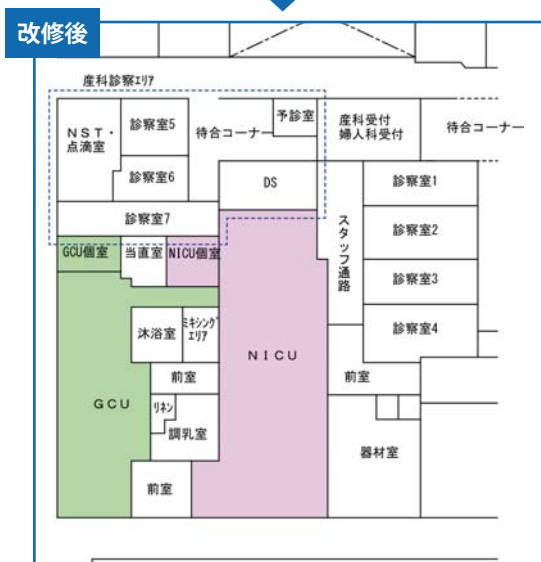
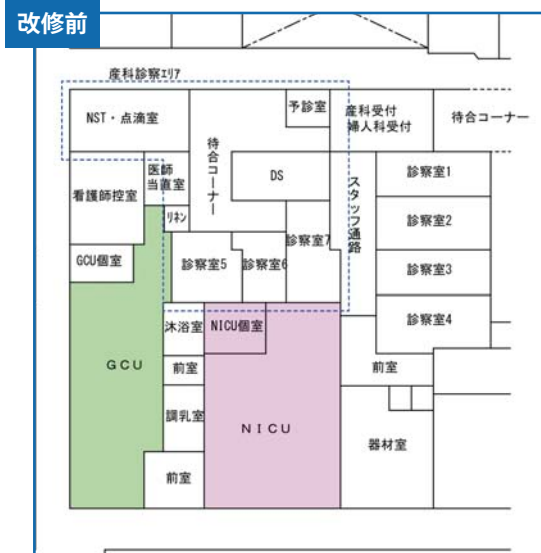
産科

●産科に関する母体搬送及び紹介受け入れは継続します。ただし、確実に分娩になりそうな症例など急を要する症例は児の入院が困難であることが予測されます。このような症例に関しましても当院が搬送先を探したうえで搬送業務を請け負うこともあります。胎児異常の診断に関しても、診断の上適切な医療機関への紹介は継続します。

NICU/GCU

●2020年10月から2021年3月までNICU/GCUを閉鎖します。この間の新生児の相談は、それぞれの地域の医療機関（島根県立中央病院、松江赤十字病院、益田赤十字病院、浜田医療センターなど）にご相談をお願いします。ただし、搬送先が見つからないなどお困りの場合は、搬送のお手伝いをさせていただきますのでご連絡をお願いします。

●新生児の小児外科疾患および小児循環器疾患に関して、それぞれ小児外科診療科長・久守孝司、小児循環器疾患担当・安田謙二/中嶋滋記にご相談頂ければ、対応させていただきます。



ご報告

島大病院ニュース 2020年11月

人工聴覚器について

耳鼻咽喉科 診療科長 教授 さかもと たつり
坂本 達則

慢性的な難聴で対処が必要な場合、外耳や中耳の疾患で起きる伝音難聴に対しては外耳道形成術や鼓室形成術、内耳障害で起きる感音難聴に対しては補聴器が用いられます。しかしこれらで十分な対応が出来ない場合も多いため、最近では人工聴覚器といわれるデバイスを用いた治療が行われるようになってきていますので、その中から代表的なものをご紹介します。

人工内耳は、蝸牛に挿入した電極で直接聴神経を刺激することで音感を得るものです。小児から高齢者までの、主に両側の高度感音難聴の方が対象です。慢性的な感音難聴には根本的な治療法がありませんが、高度難聴の患者さんが言葉で意思疎通出来るようになり、なかには歌がわかるようになる人もいますなど、適応になる患者さんにとっては非常に役立つデバイスです。

埋込型骨導補聴器 (BAHA) は、小手術で頭蓋骨に振動子を埋め込み、これを振動させることで音感を得るものです。主として伝音難聴と一部の感音難聴の方が対象です。音の伝達効率が良く、比較的自然的な聞こえを得ることが出来ます。

人工中耳は、2016年に保険収載された新しい人工聴覚器で、耳小骨や卵円窓 (蝸牛にある膜状の窓) に振動子を結合させて聴覚を得るものです。高度な手術技術を要しますが、得られる音感はよりクリアであるとされています。

慢性的な難聴に対してどのような治療やデバイスが適応になるかは、病態や聴力、ご本人にとっての必要度や意欲、ご家族のサポートなど、様々な要因を考えて判断する必要があります。適応診断も含めて、当科にご紹介いただければと思います。

慢性難聴疾患と対応

	外耳	中耳	内耳
疾患例	外耳道閉鎖症 など	慢性中耳炎 真珠腫性中耳炎 など	突発性難聴 加齢難聴 など
難聴の種類	伝音難聴		感音難聴
一般的な対応	外耳道形成術	鼓室形成術	補聴器
人工聴覚器	埋込み型骨導補聴器 人工中耳		人工内耳

人工内耳 蝸牛内に電極を留置して聴神経を刺激



埋込型骨導補聴器 側頭骨に埋設した振動子を振動させる



人工中耳 耳小骨や蝸牛に固定した振動子でエネルギーを伝達



(図の一部はコクレア社、メドエル社から提供)



2020年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2020年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告

島大病院ニュース 2020年11月

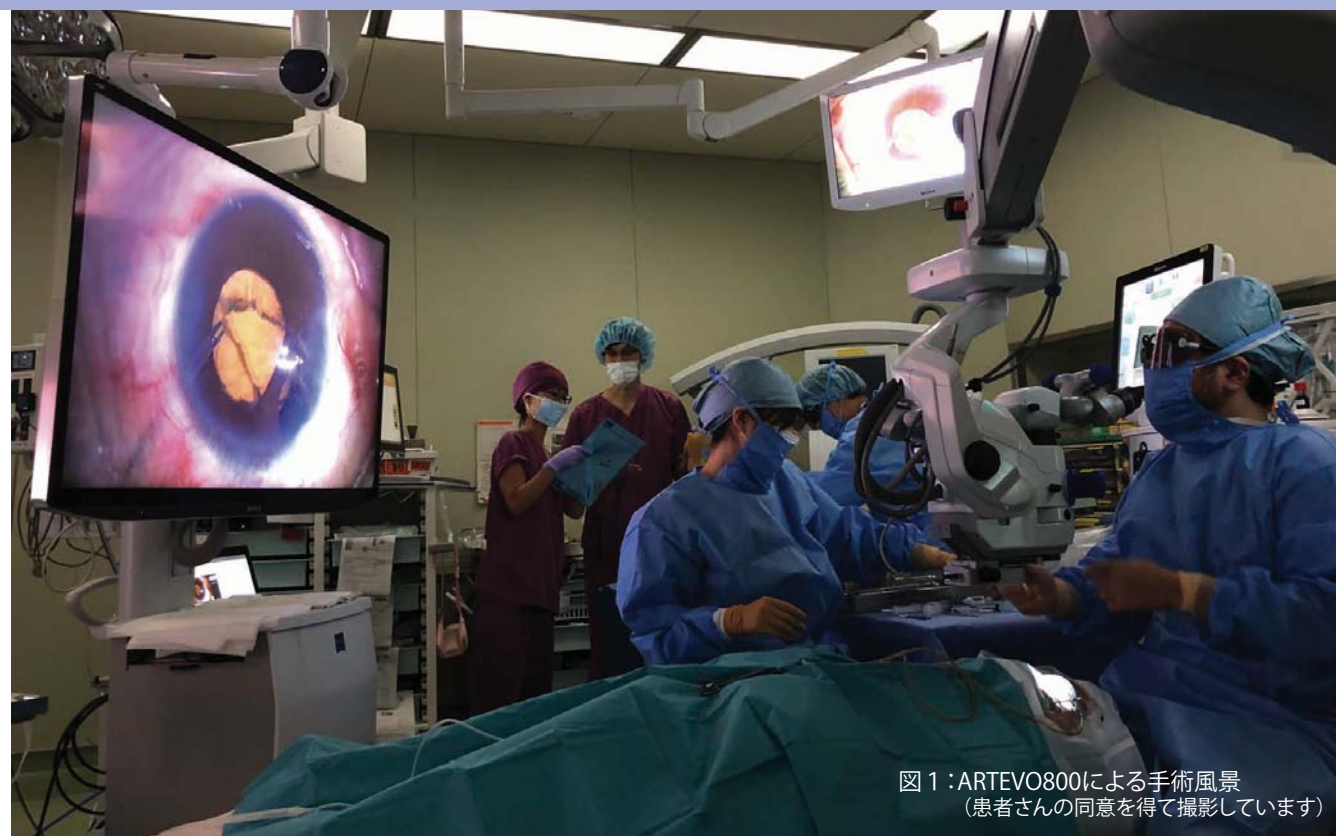


図1: ARTEVO800による手術風景
(患者さんの同意を得て撮影しています)

国内初導入された3Dデジタル顕微鏡で手術を行っています

眼科 診療科長 教授 たにと まさき
谷戸 正樹

眼科の手術は、ほぼ全てが顕微鏡を用いて行うマイクロサージャリーです。そのため、顕微鏡の性能は手術のクオリティーに直結します。当院では、2019年9月から、最先端の機器である3Dデジタル顕微鏡 ARTEVO800 を国内の施設として最初に導入しました(図1、2)。本機器には高解像度カメラが内蔵されており、顕微鏡を覗く代わりにモニターに映し出された立体映像を見ながら手術を行います。コントラストが高く、深さ情報がわかりやすいため、手術精度が向上します。また、モニター画面を術者以外も見ることができ、研修医や学生の教育にも活躍しています。本機器を用いた臨床研究も論文として発行されました(Ishida Aら、Journal of Ophthalmology 2020)。今後も、眼科治療の高度化・高精度化に取り組んでいきたいと思ひます。

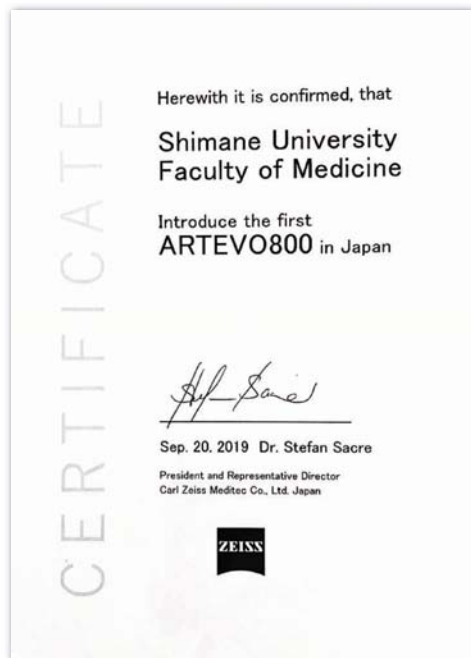


図2: 会社から発行された国内初導入の証明書



ご報告

島大病院ニュース 2020年11月



B病棟8階 特別室Cからの眺望

特別室料金の引き下げについて

医療サービス課

A B病棟の低層階の特別室について、眺望等の環境面が病室により差がありましたので、患者さんのご要望にお応えして、この度料金の見直しを行い、2020年10月より右表のとおり料金を引き下げました。

今後も快適な入院生活を過ごしていただくために対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

特別室名称	変更前 (1日につき)	変更後 (1日につき)
特別室A	13,200円	13,200円
特別室A(緩和ケア)	6,600円	6,600円
特別室B	8,800円	8,800円
特別室B(緩和ケア)	3,300円	3,300円
特別室C	5,500円	5,500円
特別室C*	5,500円	4,950円
特別室D	1,650円	1,650円

B病棟5階 特別室C*からの眺望



耐震補強の鉄骨により景観が損なわれている



外来中央診療棟の屋上部により景観が損なわれている



2020年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2020年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



ご報告



患者さんが一息つける「ほっとコーナー」を開設しました

病院アメニティ向上WG

本年7月より、A・B病棟1階郵便局隣の空きスペースに、コインロッカー及び両替機に加え、患者さんやご家族の方にほっと一息ついて休憩いただけるよう、テーブル・椅子を配置し、病院長ネーミングによる「ほっとコーナー」の運用を開始しました。

元々このスペースは、院内コンビニ受託業者が医療用ウィッグや電動車いすを展示し、患者さんに試用していただくこととしていましたが、利用状況が高くなかったため、2020年2月から閉鎖していました。

この状況を受け、この空きスペースの有効活用について「病院アメニティ向上WG」で検討を行いました。当WGは、患者さんの声や退院患者アンケートから、患者さんの利便性向上や快適な病院環境づくりなどを検討する組織として、医師・看護師・医療スタッフ・事務職員・売店や食堂を運営する事業者など幅広い職種で構成しており、ご意見やご要望に対し具体策を提案し可能な限り実現することを目的としています。

これまで「両替機が各階にあったらいい。」「コインロッカーの場所がわかりにくい、台数が不足している。」などのご意見が寄せられていたことから、この空きスペースにA・B病棟エレベーター横の既設コインロッカー3台を移設するとともに、1台新設した結果、20人分のご利用が可能となり、同時に、両替機1台も新設しました。コインロッカーは、おおむね半数以上のご利用があり、また、椅子に座って休憩されている方も多く見受けられ、好評をいただいているものと思います。

今後は、WGメンバーが選定した絵画をローテーションにより飾ることや自動販売機1台を新設することなどを計画しており、病院アメニティの更なる向上に努めてまいります。



院内災害訓練の実施について

災害医療・危機管理センター (DiMCO) センター長 教授 わたなべ ひろあき
渡部 広明

当院は災害拠点病院に指定されており、業務継続計画 (BCP) に基づく大規模災害時の院内訓練を年1回行うことが義務づけられております。このため本年10月2日に出雲市を中心とした大規模地震災害を想定した院内災害訓練を実施いたしました。出雲市内で震度6強の地震が発生した場合の院内初動とその後の救護活動に向けての院内業務手順の確認とシミュレーションを行いました。本年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大という社会的状況を考慮して、感染対策を実施しての訓練となったため、若干規模を縮小して3密環境をなるべく作らない環境を用意しての訓練となりました。

地震発生直後に、災害医療・危機管理センター内にDiMCO災害初動本部を設置し、初期の指揮権空白時間を極力作ることなく、15分以内に災害対策本部を設置し初動対応を行う手順を確認しました。また救急現場では、現地診療調整本部を設置して災害時救急体制の構築と診療を行いました。また本年は従来土曜日という休日に実施していた訓練を平日の午後に開催することで、業務中に多くの職員が訓練の様子を見学することができ、災害発生時の対応の様子を見て確認することもできました。大規模災害は忘れた頃に突然やってきます。万が一の災害に備え、混乱なく災害対応ができる地域の災害拠点病院として引き続き訓練や平時の準備を進めて参ります。





島大病院ニュース 2020年11月

ご報告



島大病院ニュース 2020年11月

ご報告



2020年度 消防訓練を実施しました

会計課施設管理室

当院は消防法に基づく特定防火対象物（不特定多数の者が出入りする施設等）に指定されており、年2回以上の消防訓練の実施が義務付けられています。

今年2回目の訓練として10月21日（水）に実施しました。

夜間に発生した病院火災に対応した【通報】・【連絡】・【初期消火】・【患者さんの避難誘導】の訓練を実施し、自主防火体制の強化と防火に対する意識の高揚を図ることを目的としており、出雲市消防本部の指導のもと行いました。

火災報知器の発報と同時に火災現場の病棟看護師が火災の【発見】、【通報】、【初期消火】を行い、当直看護師長の指示により、医師当直者、夜勤看護師、看護師宿舎入居者が【入院患者さんの避難誘導】を行いました。自衛消防隊本部は病棟南側庭園（駐車場）に設置し、出雲市消防本部と連携し、情報の収集確認等行いました。また、逃げ遅れの患者さん1名がC病棟5階ベランダに避難した想定で、消防本部のはしご車で救出する訓練も行いました。

訓練終了後、出雲市消防本部の講評があり、休日・夜間帯などの少人数のスタッフしかいないときの火災時の対処方法を平日頃から考え、消火器の設置場所など勤務場所のフロアを確認していただくことや、階段を使う垂直避難よりも、同じフロアの防火区画に移動する水平避難がより有効であることのアドバイスをいただきました。

当院としては、毎年訓練を体験することで、実際の火災時への対応力を身に付けたいと考えています。



理学療法士の増員計画について

リハビリテーション部

リハビリテーション依頼件数は年々増加し、現在、理学療法部門では18名の療法士で1日あたり平均200名の診療を行っています。2019年度のリハビリテーション部の算定額のうち理学療法部門は64%を占めています。特にスポーツや心臓リハビリテーションなどの外来患者数の増加が著しく（新規紹介患者 前年比179%）、部門全体の収益向上に貢献しています。

2017年度までの増員計画では1日に約150名の患者さんに対応できるように整備して参りましたが、手術前後のリハビリテーションの強化や土曜日などの休日診療、ウィメンズヘルスなどの新しい領域のリハビリテーションに対応した結果、想定を超えて急速に患者数が増加しました。患者数増加に伴い、一人ひとりの患者さんに理学療法を提供できる時間が限られ、患者満足度アンケートにおいても、リハビリ時間に関する要望がありました。

そこで、理学療法の需要から必要とされる人員数を調査・算出したところ、6名程度の理学療法士の増員により患者さんに必要十分なリハビリテーションを提供できる事が判明しました。このような状況を考慮した結果、2021年度から2023年度にかけて毎年2名ずつ計6名の増員を行うことが承認されました。

今後は、新設された高度脳卒中センター、周産期母子医療センター、下肢血管治療センターなどの診療チームの一員として積極的に貢献して参りたいと思います。



2020年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2020年11月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



お知らせ



うさぎ保育所

2020年度 運動会を行いました

総務課

10月10日(土)うさぎ保育所の一大イベント「運動会」を医学部体育館にて行いました。今年はコロナ禍の中、例年とは少し違う形での開催となりました。

参加園児はひまわり組・こすもす組(主に3歳以上児)の48名。今年度は、4月からの行事は中止または代替の行事になり、保護者参加もできない状況でした。年長児さんにとってはうさぎ保育所最後の運動会です。せめて年長児さんの保護者の方だけでも、子ども達の頑張っている様子・成長した姿を見て頂きたいという思いから、2名までの制限付きで感染対策に気をつけて参加して頂くこととしました。

プール遊びが終わると同時に運動会に向けてたくさん活動してきた子どもたち。うまくできなかった駆け足跳びや長縄跳び、鉄棒・平均台・マット運動等々…練習に練習を重ね、少しずつできるようになってきました。リハーサルでは、本番さながらの熱気とパワーで、圧倒されるほどの気持ちの入れようでした。

当日は全員が元気に参加し、さらに本気の勝負。一人ひとりが自分なりの力を精一杯発揮して頑張る姿にたくさんの感動をもらいました。かなり規模を縮小しての運動会となりましたが、全ての競技を子どもたちだけでやり遂げたことは大きな達成感と自信につながったことと思います。みんなの思い出に残る楽しい運動会となりました。

附属病院ホームページ 英語版・ポルトガル語版を公開しました

総務課企画調査係 係長 いまわか しゅうこ
今若 修子

医学部附属病院のある出雲市には約3千人の日系ブラジル人が居住されています。その大半が市内の電子部品メーカーの工場に勤務され、ご家族で定住されている方も数多くいらっしゃいます。

どこで生活をしていても医療は必要不可欠ですが、言葉や文化の違いのために、病気になっても病院に行くのをためらったり、受診の際に戸惑ったりすることもあるでしょう。

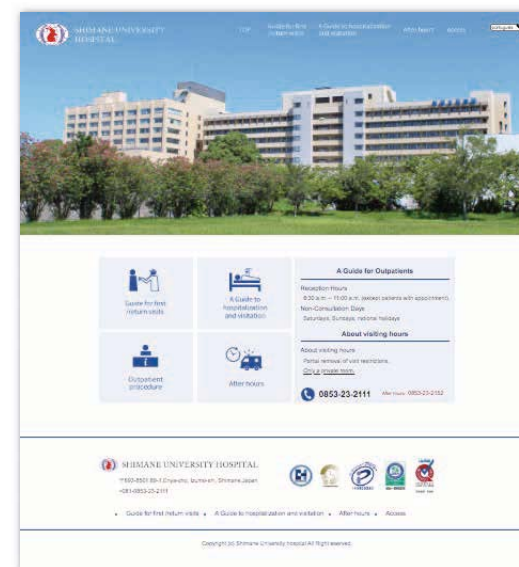
当院は、そのような日本語に不慣れな外国人の患者さんにも安心して治療を受けていただけるように、2016年にポルトガル語版、2017年に英語版の診療案内を作成し、ブラジル人を雇用されている事業所に配付させていただきました。その際には大変大きな反響があり、感謝の言葉を多数頂戴しました。

そして現在、院内で外国語を話されている方を見かけることも日常の風景となっています。当院は外国人の患者さんとのコミュニケーションツールとして、翻訳機能付きタブレット「MELON」及び「ポケットク」を活用しているほか、病院玄関にデジタルサイネージを設置するなど最新デジタル機器を用いて多くの情報を提供しております。そしてさらに、パソコンやスマートフォンから、いつでもどこでも情報にアクセスできるよう、この度、英語版・ポルトガル語版ホームページを公開いたしました。

英語は、本学医学英語教育学のLynne Murphy 助教に、ポルトガル語は、診療案内と同じく、翻訳者のヒラタエリナさんに訳していただきました。受付から受診方法、料金の支払い、入院についてなど、必要な情報がなめらかな文章で紹介され、機械翻訳では限界がある言い回しや医療用語も、読みやすくて的確に表現されています。

本年はコロナ禍において、医療に関する情報が得られないなど、外国人の患者さんは特に不安な日々を過ごされたことと思いますが、ホームページをご覧いただき、安心して受診していただけたら幸いです。

当院は、言葉や文化の垣根なく、どなたでも高度で先進的な医療を受けていただけるよう、これからも多文化共生の取り組みを続けてまいります。



英語版
ホームページQRコード



ポルトガル語版
ホームページQRコード





ご報告



新型ドクターカーの運用開始について

高度外傷センター センター長 教授 わたなべ ひろあき 渡部 広明

高度外傷センターでは、重症外傷患者に対応する病院前医療提供のため外傷ドクターカーの運用を行っております。年230件程度の要請をうけ、出雲市、雲南市、大田市の3市の消防本部と連携して活動を行っていますが年々要請件数は増加しており、地域の外傷診療になくはならない存在となりつつあります。多様化する重症外傷の病態に迅速に救命治療を開始する必要性から、病院前のニーズも変化してきています。こうした環境に対応するため、当センターではドクターカーの車両をリニューアルし、従来以上の機能強化を図りました。車両の高規格化とともに車内での診療オプションを拡大し、救命手術（蘇生的開胸術など）に対応する寝台と照明機器を搭載しました。また現場での診療と基地病院での指揮をスムーズに行うことを目的に、最新鋭の映像による遠隔診療情報支援システムを導入しました。ドクターカー内において行われる診療の様子やバイタルサインはリアルタイムに映像で基地病院へ転送され、院内の上級医・指導医の指示のもと現場医師が診療を行うことができるようになりました。さらに近隣局地災害発生時の現場医療指揮所としての機能を構築するための装備を搭載しています。また近年問題とされている新型コロナウイルス感染症の重症患者に対してECMOを導入した患者さんの搬送および導入にも対応しています。

様々な外傷や災害に対応することのできる高規格のドクターカーで、ドクターデリバリー（doctor delivery）をより充実し、救命率の向上を目指して参ります。



お知らせ

遺伝性乳がん卵巣がん(HBOC)に関する 遺伝子検査・予防検査・治療が保険診療になります

がんゲノム医療センター センター長 いそべ たけし 磯部 威
臨床遺伝診療部 みなもと としこ あらき 皆本 敏子・荒木 もも子

2020年4月より HBOC が疑われるがん患者さん（表1）の遺伝子検査、遺伝カウンセリング加算、HBOC と診断された方に対する MRI 乳がん検診、リスク低減手術が保険診療となりました。

遺伝性乳がん卵巣がん (Hereditary Breast and Ovarian Cancer:HBOC) とは？

遺伝性腫瘍の1つです。DNA の修復機能をもった BRCA1 あるいは BRCA2 遺伝子に生まれつきに変化があることで、変化がない人と比較し、乳がん、卵巣がん、前立腺がん、すい臓がん等に罹患しやすくなると言われています。新規に発生する我が国の卵巣がん、乳がんのそれぞれ約1割を占めます。

常染色体優性遺伝で、両親どちらかの BRCA1 または BRCA2 遺伝子に変化がある場合、子がその体質を受け継ぐ可能性は1/2となります。BRCA1 または BRCA2 遺伝子に変化がある HBOC の方の場合、がんになる確率は年齢と共に上昇し、生涯で乳がんになる可能性は7割を超えと言われています。

HBOC を診断するための手順と検査法

HBOC の診断は BRCA1、BRCA2 の遺伝子検査によって行われます。まず、家族歴やがんのタイプ、発症年齢など詳細に聞き取り、HBOC の可能性があるかどうか、リスクをお伝えします。

検査を受けて HBOC と診断された場合は、今後、関連がんに罹ることが予測されること、本人のみならず血縁者にも影響を及ぼす可能性があるなど、心理・社会的な影響もあるため、十分に遺伝カウンセリングを行った上で意思決定を行う必要があります。

検査は採血で行います。当院では、2020年4月より条件（表1）に該当する乳がん・卵巣がん患者さんの検査は保険診療で受けていただけるよう体制を整備しました。

HBOC と診断された場合、医療管理にはどのような選択肢があるのか？

BRCA1、BRCA2 遺伝子に変化のある方に対しては、予防・早期発見を目的とした検査やリスク低減手術（卵管卵巣切除術（RRSO：risk reducing salpingo-oophorectomy）・乳房切除術（RRM：risk reducing mastectomy））が推奨されます。

がんを全く発症していない方は一連の検査や手術は従来通り自費となりますが、HBOC と診断された方はまだがんを発症していない臓器に対してのリスク低減手術などが保険診療内で実施することが可能です。2020年7月から、当院においても RRSO が保険診療下で可能となりました。今後は RRM も可能となる見通しです。当院ではがんゲノム医療センターと臨床遺伝診療部、主病科が連携して綿密なカンファレンスを行い、予防切除の適応であるか検討する体制を整備しております。

BRCA 遺伝子検査、遺伝カウンセリング、RRSO・RRM については、当院地域連携センター（TEL:0853-20-2061）もしくは各診療科まで遠慮なくお問い合わせ下さい。

表1 保険診療となる条件

- 【条件】
- ★45歳以下で乳がんを発症
 - ★60歳以下のトリプルネガティブ乳がんと診断
 - ★2個以上の原発乳がんを発症
 - ★第3度近親者内に乳がんまたは卵巣がんを発症した方がおり、家族歴からHBOCが疑われる
 - ★男性乳がん
 - ★卵巣がん、卵管がんおよび腹膜がん
上記に該当しないが、下記に当てはまる方
 - ★化学療法を受けているHER2陰性の手術不能または再発乳がんの患者さんで、「オラパリブ」での治療を検討している





ご報告



糖尿病性腎症専門外来を開設しました

内分泌代謝内科 診療科長 教授 かなさき けいぞう
金崎 啓造

日本では年間約4万人の方が末期腎不全のため透析療法を開始されますが、その約40%強の方の原因が糖尿病です。診療科長である金崎は糖尿病合併症、特に糖尿病の腎臓合併症(糖尿病性腎症、糖尿病性腎臓病)制御を専門にしております。「島根県から糖尿病を原因とした透析導入を撲滅する!!」ことを目標に、その第一歩として2020年4月6日に糖尿病性腎症専門外来を開設しました。開設以来延べ64人の患者さんの

診療を行っています。当外来は月曜日の午後隔週・水曜日午前診療を行っていますが、曜日・時間が合わないことなどあると思いますので、その場合は通常外来でも当科スタッフ間で相談の上、責任を持ち診療いたします。また、他の腎臓病が疑われる場合には腎臓内科とも連携しながら診療を進めて参ります。

明るい未来も見えてきました。様々な新規糖尿病治療薬に糖尿病性腎症に対する進展抑制効果の可能性が報告され、特にSGLT2阻害薬やGLP-1受容体Aゴニストと言ったタイプの抗糖尿病薬による腎合併症進展抑制効果は明白です。これら新規薬剤も用いながら、腎臓合併症を有する糖尿病症例に対して、チーム医療により世界最先端・最良の治療を行っていきたくと自負します。まずは糖尿病性腎症専門外来を設置することでどの様に地域の皆様の健康維持に貢献できるのかご評価・ご批判いただければと思います。もちろん合併症発症前の糖尿病に関しても積極的に治療を行って参ります!

新しく透析を開始した
全ての患者数 約4万人
その中で.....



最先端治療



糖尿病からの
透析導入を
撲滅!!!



ご報告



清掃ボランティア 塩冶百寿会さんにお世話になりました

会計課施設管理室

当院では、定期的に清掃ボランティアさんにお世話になり、草刈り、清掃等の環境整備を行って頂いています。

塩冶百寿会さんは塩冶地区の11名のメンバーで年3回(4月・7月・10月)定期的にボランティア活動を実施して頂いています。今年はコロナウイルス感染対策のため、大人数での活動が中止となる中、少人数の強みを生かし、コロナ対策をしっかりと頂いて環境整備を行っていただきました。

10月3日(土)好天の下、9時から10時までの間、正門西側の築地松の枯れ葉収集と草刈り清掃を行って頂き、1時間後にはとてもきれいになりました。塩冶百寿会の皆様方には、毎年参加して頂き、雨天の時は立体駐車場の清掃などに変更し、中止することなく地道な活動ではありますが、確実に貢献して頂いています。

当院は地域のボランティア活動に支えられ、患者さんも快適な環境の中で気持ち良く治療を受けていただけることと思います。塩冶百寿会の皆様、またその他のボランティアの皆様いつもありがとうございます。

